

七間町 人宿町
おまち×Design
SOZOSYA TERRACE

1
静岡市葵区七間町16-5
「何だあれ?」。思わず昭和通りを渡らずにいられない36mにも及ぶ巨大壁画。気になる建物に足を踏み入れれば、そこはさしずめ美食の館。この中でハシゴしてしまいたい。



日本酒 泉師
1F/054-251-7810
17:00~24:00/日曜定休
全国100種以上の地酒を味わえる、日本酒に特化したバー。5勺500円ほどから飲めるので、好みを伝えて飲み比べをしてみたい。酒粕マヨネーズをかけた「泉師のポテトサラダ」やあぶった魚などアテがまた日本酒に合うものばかり!



ラ フィレット
la Fillette
2F/054-251-6018
17:30~24:00/日曜定休
グラスワインが常時8種用意されており、多彩なアラカルトを組み合わせ気軽に食事ができるのがうれしい。ハレの日にはとおきのワインを楽しもう。パーティーコースは3人から予約でき、3,500円より。



七間町 人宿町
おまち×Design
EZAKI-SOZOSYA キネマ館

2
静岡市葵区人宿町2-5-1/2-5-2
9月28日にオープンしたばかりの飲食・住宅・演劇複合施設。大正時代の人々が浮か立つ思いで見上げたキネマ館の面影を、窓と窓の間を飾る紋様や石材の重厚感が伝えている。



レストラン ニノサ restaurant ninosa
スヰガニとホタテのテリーヌ ¥1,600
鶏むね肉の軽い焼込 ¥1,800
SOZOSYAキネマ館1F/054-251-3502
平日17:00~22:00LO 土日祝12:00~19:00(18:00LO)
水曜・第3火曜定休
火入れ加減や塩加減、さりげない技がうならせる。新通で13年、ファンを引き付けてきたのは、料理はもとより、そっとニーズを察するおもてなしの力。新たなお店は、二ノ宮シェフがパリで見つけたすてきなピストロを意識した空間に。

カルテリショップ静岡 Kartell
EZAKIキネマ館2F/054-686-2469
11:00~19:00/水曜定休
プラスチック製家具のパイオニアとして世界で愛されるイタリアの家具ブランド。透明感と複雑なカットングが美しく、デザイン性と機能性を兼ね備えているのが魅力的。テーブルやスツールなど家具のほか、食器や照明も。プレゼントの候補見つけた!
Battery ¥28,296~



七間町 人宿町
おまち×Design
曲がりたくなる角
新 静岡遊歩

路地裏散策は楽しい。静岡の“おまち”の中で今、七間町や人宿町の小路にスタイリッシュな建物が次々に現れ、大人をワクワクさせているという。歴史ある通りに新たな息が吹き込まれ何が生まれている? キラリ光るものに目がないフリーキャスター 鬼頭里枝さんと探索した。



ご紹介するのはほんの一部! お店巡り 楽しいですよ

七間町 人宿町
おまち×Design
宇田川ベースカフェ

4
静岡市葵区人宿町2-6-3
パラダイスビル2F
054-330-1232
9:30~14:00
夜は予約の宴会のみ10名~
日曜・水曜定休、ほか不定休あり

おうちの形をした広いキッズスペース。小さな子を安心して遊ばせられてママがくつろげる場を...と子育て経験のあるオーナーシェフ宇田川さんが優しく出迎える。ランチのパンは手作りでキッズメニューも。口コミでファン拡大中。



焼き立て土鍋ご飯とおばんざい ¥2,700
1F/054-204-0037
12:00~14:00LO要予約 18:00~22:00LO予約が安心
月曜定休

本格的な和食をベースにした創作料理。若き料理人・三輪シェフが、地元産を中心に旬の食材を厳選。その味わいを存分に引き出す。料理に合う全国の日本酒やワインもそろっているため、おもてなしやお祝いごとの席にもぴったりだ。

七間町 人宿町
おまち×Design
SOZOSYA Mビル
5
静岡市葵区人宿町1-1-10
築30年の雑居ビルがリノベーションにより大変身。草木をイメージした外壁パネル。明かりがともると夜の森のよう。飲食店のほか、シェアオフィスやヘアサロンが入居している。



七間町 人宿町
おまち×Design
ゲストハウス ヒトヤ堂

6
静岡市葵区七間町16-8
054-687-8458/7:30~18:00(喫茶)
喫茶のみ火曜定休
美大卒の女性2人が37年間営業していた純喫茶を引き継ぎカフェ&ゲストハウスをオープン。プロセスを眺めるのも楽しいサイフォン式で入れたコーヒーをいただく。スイーツの持ち込みOK。2階には最大14名が宿泊可能。



テキーライダイナー
7
静岡市葵区人宿町2-4-9
054-255-7595
12:00~14:00LO(予定)
18:00~23:30LO(予定)/無休
備長炭で焼き上げたビーフパティ、自家製ベーコンにマヨネーズ...本場のハンバーガーを愛する人に高い人気を誇るアメリカンダイナーが昭和通りを渡ってお引越し。



七間町 人宿町
おまち×Design
人宿町離宮
3
静岡市葵区七間町19-1
香ばしい手焼きせんべいやチーズケーキ。手土産選びが楽しい瀟洒(しょうしゃ)なビルは、夜になると光があふれ優美に変身。離宮の名にふさわしく、大人をゆったりと出迎える。



小料理 そっせ 1F/054-272-0308
17:30~23:00(22:30LO)/不定休
「ライブ感を楽しんでほしい」とカウンター席のみ。鷹匠の日本料理店で修業した店主が腕を振る。料理はおまかせで5,000円のコースから。次は何が出てくるのか五感が騒ぐ。2軒目なので軽めに...という人はおつまみコース3,000円を。
車海老と生鮓のしんじょう焼 ¥10,000のコースは要予約。

トワ フルール
Les trois couleurs 1F/054-251-6881
11:30~15:00(14:00LO)
18:00~22:00(21:00LO)/不定休
旬の素材の良さを引き出しつつ、視覚でも楽しませるフレンチレストラン。ランチコース2,160円~、ディナーコース4,320円~。アラカルトもあるので軽く数品楽しむのもよし。そんな時は自慢のカウンター席でいかが?
オマール海老と季節のフルーツのサラダ仕立て ¥2,160



娯楽を求め変化してきた街

七間町といえば映画館の思い出。大きなタイル壁画が懐かしい。江戸時代の七間町や人宿町の界限は、流通拠点や旅商人の宿屋街として栄えた。明治になって大衆演劇や演芸が庶民の娯楽として広まるようになると、七間町に興行を催す小屋が次々に造られた。明治後期になるとこうした小屋で活動写真の上映が行われるようになっていったという。映画館やアミューズメント施設を運営している静岡の前身「静岡活動写真株式会社」が1919(大正8)年、札の辻に誕生し、七間町通りと両替町通りの角の区画に映画館「キネマ館」を開館した。3階建ての洋館に足を踏み入れるのは、当時の人々にとって非日常のものだったに違いない。この象徴的な建物の誕生が七間町を映画館の街としてさらに発展させた契機だった。キネマ館は1940(昭和15)年の静岡大火により焼失。戦後に再興した映画館街も2011(平成23)年の静岡9館の閉館を最後に姿を消した。

時を同じくして駿河区から移転してきたのが建設設計のデザインオフィス創造舎だ。映画館の街ではなくなってしまう七間町。山梨洋靖代表は「この街に新たなにぎわいを創出して盛り上げたい」と感じています。「新旧が混じっている空気が元々この街にはあった」ことが背中を押し、魅力ある建物を造り、同時にいくつもの店をオープンさせることで相乗効果を生む「OMACHI創造計画」に取り組んだ。プロジェクトはまだ進行中だ。江戸時代から、娯楽を愛する人々のときめきで変化を続けてきた街。小屋、映画館、ビル...と器は変われど主役は集う人。まずはこの秋、時代をつくる一人になってみては?

